**要約筆記者に感謝する**

皆様こんにちは、本日はよろしくお願い致します。

私は聴覚障碍者。聴覚障碍者の中の中途失聴の部類に入ります。

知らぬ間に後期高齢者の一員になっていました。当年７９歳、来年に傘寿を迎えます。いたずらに馬齢を重ねたものです。

耳が悪かったために　〽埴生の宿も　我が宿　玉の装い　うらやまじ〽と心でつぶやきながら急峻なわが人生の山道を一歩、一歩、ただひたすら足下だけを見て歩いて来ました。

振り返ってみれば、長かったような、短かったような、複雑な思いが交差しています。その中には耳が悪かったための苦労も多々あったのですが、あらかた忘れてしまいました。記憶というものは、つくづく便利だと思うこの頃です。それでも２，３忘れることのできない思い出があります。その記憶をたどってここでお話します。お笑い種にとお聞き流しください。

先ほど申しましたように、私は聴覚障碍者です。

２０歳少し前に聞こえ方がおかしいということで、何件もの医師の門をたたいたのですが、結局原因不明とのことで、以来補聴器をつけて生活しています。

当時、私は神奈川県の藤沢に住んでいました。何件かの医師の中には横浜国立、千葉医大、品川の船員病院などの病院もあります。父のつて、母のつてなどを頼って診てもらいに行きました。

父の知人の紹介で行った病院では８時の診療時間に間に合うようにと早朝６時に出て２時間かけて病院に行ったものです。そんなある日のことです。いつものように受付付近で、いつ呼ばれるか神経をすり減らしながら待っていたのですが、９時を過ぎ１０時を過ぎ、１１時を回っても私の名前は呼んでくれません。１２時が来て窓口のカーテンが締まりかけましたので、そのカーテン越しに中込だけど、まだですか？とおどおどしながら尋ねたところ、中込さんは、とっくにお呼びしましたよ、もう先生はお帰りになってしまったのでまた明日きてください・・・・。と言われました。自分とさほど年齢の違わない看護婦さんに苦情も言えず、おずおずと引き返したことがありました。

それからさほど月日がたたない頃のことです。母の知人の紹介を得て、品川の船員病院にいった時でした。何日かいろいろと検査があって、今日はその検査結果の報告が医師からあるという日です。母と一緒にその病院に行きました。かなり早くに病院に着いたのですが、その病院を出たのは１時が回っていました。品川駅に行くまでの道すがらの大きなホテルの食堂で母と遅いお昼ご飯をたべることになったのです。

オードブルから始まってデザートで終わる。豪華なフルコースでした。ホテルの立派な食堂、大きな声で話をするには差し控えなければならない場所ですし、もちろん耳が不自由なのでそう話ができるわけではないのですが二人で黙々と食べました。先生が何をおっしゃられたか母は何も言いませんでしたが遅めのその豪華な昼食が、先生が母に何を伝えたのか、おおよそ想像ができました。

難聴になった当時は、青春の真っただ中、とにかく聞こえないというコンプレックスを背負っていたので、外で知人や学友と出会うのが怖くて怖くて、若かっただけにその戸惑いは半端ではありませんでした。陸の生き物が海の中に、なげこまれたかのような、または海の生き物が陸に引きずりあげられたかのような、そんな感じでしょうか。

家にひきごもり勝ちな私を心配して母は甲府の小さな飾り屋を見つけてきました。「耳が聞こえなくても両の手があれば飾り屋はできる。」とそこの社長は言い、その会社の世話になり、その会社で定年を迎えました。

小さな飾り屋の小さな歯車として働いていたので世間に疎く、「ろう者」のことも「難聴者」のことも知りませんでした。

定年を無事迎え、失業保険を受け取るためにハローワークに行くにあたって、若いころ経験した病院の窓口での苦い思い出がよみがえり、呼ばれても聞こえず手続きできず失業保険が下りなかったら、路頭に迷うことになると心配をして、妻を伴って手続きに行くことにしたのですが、そのハローワークの担当の職員に「金魚のうんちでもあるまいに、奥さんのお尻について来ないで、自分一人で手続きに来なさいと・・・書かれた紙を渡され、此畜生・・障碍者の気持ちも知らないで・・と憤慨したのですが・・。悔しいので次の月には一人で行きました。案ずるより産むがやすしとのことわざのごとく・・・ハローワークの職員は皆親切で、自分の番がくるとわざわざ呼びに来てくれるし、筆談で応対してくれるし・・・至れり尽くせりでほっとし、金魚のうんち云々の職員に感謝したものです。その金魚のうんち云々の職員から、情報センターのことを聞き、要約筆記者の存在を聞きました。

要約筆記という職業があることはその時初めて知ったのですが、親切な筆記者のおかげで、以降、難聴協会の会議やその上部団体の会議に積極的にその派遣制度利用して来ました。おかげ様で、明るい楽しい人生が送れます。

要約筆記者の存在に感謝の念が絶えません。

人様の深い情けにほだされています。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ご静聴ありがとうございます。